

## 和歌山病院での研修を終えて



渡邊 有史

私は初期研修医 2 年目の 10 月に和歌山病院の呼吸器内科をローテートさせて頂きました。まず一つ言わせて頂きたいのは、呼吸器内科をローテートするならば是非当院をローテートしてみて欲しいということです！和歌山病院での研修は上級医の先生方からだけでなく、コメディカルの方々にも教わる機会に多々恵まれました。

ローテート中は気管支喘息、COPD、気管支拡張症、気胸、他多くの疾患を担当させて頂きました。基本的に研修医が主治医となり担当します。主治医で担当させてもらえる機会はそう多くないのでとても勉強になりました。フィードバックも手厚くして下さい、大らかな先生方ばかりです。初診の外来を担当するのですが、これがとても勉強になります。救急外来とは違い、切迫感はないのですが、鑑別・検査・治療計画・今後のフォローをどうしていくかなど、非常に悩みます。もちろん上級医の先生方が困ったら助けてくれます。

悩んだ分、すごく印象に残り知識がつかえました。他には、他科との垣根が低く、呼吸器内科のローテート中に外科の先生の気胸のオペに入らせて頂いた時もありました。

薬剤師や検査技師の方々に個人的に「何々を教えて欲しい」とお願いすると、忙しい時間をぬって時間をかけてじっくり教えて下さいます。薬剤師の方には、以前より気になっていた喘息や COPD などの治療に使う吸入器について主に教えて頂きました。なんと、ご厚意で院内採用している全ての吸入器を用意してもらったのと、各吸入器で使える薬剤とその適応が一目でわかる表も作って頂きました！N 西さんありがとうございます（表は大切に保管してます。）。私は内科系志望であり、また喘息や COPD が common disease であることから、今後患者さんに対して吸入薬を処方する機会が多いと思ったため、薬剤師さんにちょっとダメもとでお願いしてみたんですが、以上のような手厚い待遇を頂き本当に感謝しています。吸入薬は実際に自分でいじってみないとそれぞれの利点・欠点分かりません。薬剤師さんは吸入指導を普段からしており、自分が気づいていないこともたくさん教えてくれます。処方するのは医者なので、その特徴を把握しておくことは患者さんの今後の QOL に大きく影響すると思います。薬剤師さんの都合もあり、中々できない病院もあると思うので、ぜひ一度は和歌山病院をローテートして教わってみるのをオススメしますヨ！実際の吸入器は研修医のデスクに置いてあるのでぜひ手にとって自分でこねくり回してみして下さい。

細菌検査室の方にはグラム染色の手順・解釈や、チールニールセン染色なども教わり、実際に結核菌を鏡検することもできました。研修医のお願いに嫌な雰囲気も出さずに、2時間くらいかけてじっくり教えて頂きました。標本をじっくり解説して頂き、普段からどういふ点に着目して観察しているのかが分かりました。何の悪気もなく出していた3連痰ですが、実際の染色・観察風景を見学するとその観察の大変さと検査科の方々が背負う重圧に、少し罪悪感すら湧いてきて、いつもありがとうございますという気持ちになりました。コメディカルの仕事を観察することができたことは、すごく貴重な経験になりました。

和歌山病院での研修生活は、自分から望むことで、どんどん挑戦させてもらえる環境だと思いました。ローテートした後ですが、もっと延長して回りたかったという気持ちもあります。新病棟も立って病棟は綺麗、宿舎も整備されており、医局のデスクも大きく・区切られているため窮屈さを一切感じることなく過ごすことができます。車がなかったのですが、自転車を貸し出してくれるため、プライベートでは御坊・日高のグルメを食べ回りました。公私ともにストレスフリーですごく充実した研修生活でした。最後になりますが、和歌山病院のスタッフの方々、本当にありがとうございました。